

# 実験実習機器センター

## 1 構 成 員

	平成19年3月31日現在
教授	0人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	15人
その他（技術補佐員等）	3人
合 計	19人

## 2 教員の異動状況

青島 玲兒（助教授）（S59. 5. 1～ 現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	10編（7編）
そのインパクトファクターの合計	3.56
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4編（4編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Muranaka Y, Kino H, Furuki M: Application of focused ion beam (FIB) apparatus for micro processing of the biological specimens on the scanning electron microscopy (SEM). Journal of Electron Microscopy Technology for Medicine and Biology, 20 (2), 127-128 ,2006.
2. Ohta I, Muranaka Y, Nakano Y, Hayakawa H: TEM observation of *Chlamydia pneumoniae*

based on immune reactive granular structures in paraffin sections. Journal of Electron Microscopy Technology for Medicine and Biology, 20 (2), 91-92, 2006.

3. 熊切葉子, 山濱由実: カイコ卵のTEM試料作製(第3報), 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 20 (1), 61, 2006.
4. 村中祥悟: 分子を走査電子顕微鏡で観察するための工夫, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 20 (1), 43-45, 2006.
5. 太田 勲, 村中祥悟, 青島玲兒: 生の試料をSEM観察できるQX-capsuleの試用, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 20(1), 46-47, 2006.
6. 太田 勲, 村中祥悟, 須田隆文, 千田金吾, 中野泰克, 早川啓史: パラフィン包埋ブロックからの免疫組織化学法による *Chlamydia pneumoniae* 抗体陽性細胞のTEM観察2, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 21(1), 158, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Suzuki T, Kazui T, Yamamoto S, Washiyama N, Ohkura K, Ohishi K, Bashar AHM, Yamashita K, Terada H, Suzuki K, Akuzawa S, Fujie M: Effect of prophylactically administered edaravone during antegrade cerebral perfusion in a canine model of old cerebral infarction. J Thorac Cardiovasc Surg 133, 710-716, 2007.
2. 針山孝彦, 堀口弘子, 弘中満太郎, 太田 勲, D. G. Stavenga: 甲虫の翅の色の起源, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 21(1), 108, 2007.
3. 堀井俊伸, 村中祥悟: カルバペネム系薬の作用により誘導されたインフルエンザ菌の形態変化像, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 21(1), 144-145, 2007.
4. 山濱由実, 熊切葉子, 村中祥悟: カイコ卵のTEM試料作製4 (加圧凍結・凍結置換法によるカイコ休眠卵の超微形態観察), 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 21(1), 138-139, 2007.

インパクトファクターの小計 [3.56]

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 村中祥悟: 大学における電子顕微鏡施設の現状と未来, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 20 (1), 11, 2006.
2. 太田 勲: 電子顕微鏡試料作製における工夫 (光顕から電顕への対応), 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 21(1), 45-47, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 清水貴子, 村中祥悟, 堀田康明, 門畑一久: ベトナムにおける電子顕微鏡事情, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 20(1), 39-41, 2006.

2. 田中育子, 野口教彦, 山崎家春, 村中祥悟: 病院病理における電子顕微鏡施設の現状と未来, 医学生物学電子顕微鏡技術学会誌, 20(1), 12-14, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### 4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数 (出願中含む)	1件

1. 含リン化合物及び抗腫瘍剤

発明者: 藤江三千男 中村悟己 山下光司 (静岡大学)

出願番号: 2007-35083

#### 5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	2件
(6) 一般演題発表数	0件	

- (2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名

村中祥悟 医学生物学電子顕微鏡技術学会第22回学術講演会 2006. 5, 浜松

- 4) 座長をした学会名

1. 村中祥悟 医学生物学電子顕微鏡技術学会第22回学術講演会 2006. 5, 浜松

2. 太田 勲 医学生物学電子顕微鏡技術学会第22回学術講演会 2006. 5, 浜松

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

村中祥悟 医学生物学電子顕微鏡技術学会 常務理事

太田 勲 医学生物学電子顕微鏡技術学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件